

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.50



タッチで支払い 【Apple Pay】は 子どもでも使えてしまう

NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原嘉一（しのはら・かいち）

いが、忘れない財布として、スマホ決済は常識になるかもしれない。

そこで、この簡単さから、子どもにも登録できてしまう恐れがある。Suicaを利用する場合も、親のクレジットカードで登録しているのだから、追加チャージも自由にできる。コンビニでのお買い物も残高不足時には即チャージできる。規制もかけられるが、勝手に親のクレジットカードを登録して、使用する場合等も、他人名義であっても承認メールさえ読めれば、親のクレジットカードが勝手に子どものスマホに登録できてしまう。

保護者が、スマホ決済を理解して体験しておかないと、家族間での不正利用や頻繁な利用も考えられる。店舗での利用だけではなく、通販サイトでも利用できるのだから、コンビニでの受け取りを利用して親の知らない間に買い物が出てしまう。アプリ内での決済も、勝手に子どもたちができる時代なのだから、お金の価値や使い方に関する消費者教育を、電子マネー版でも行わなければ、クレジットカードのトラブルが今以上に増えかねない。

東京オンラインピックまでには、Google Payも普及するだろうから、想定した学習の取り組みが必要だ。

もうスマホは電話機ではない。あらゆる不便を解消するツールとして進化し続ける。家の鍵になり、会社のIDカードとしても機能する。しかし、スマホに頼り切った生活をする、紛失時に全てが止まる。家族の電話番号を暗記していないと、連絡すらつかない。デジタル時代だからこそ、アナログな知識も必要なのだ。

JR東日本のSuicaをはじめとする非接触型ICカードが浸透し、スマホでもカードを登録すれば支払いができるスマホ決済（オサイフケータイやApple Payサービス）の利用者も増えている。現時点では対応するスマホは限られているが、使いこなせば便利なサービスだけに、今後は子どもたちの利用も増えてくるだろう。

電子マネーカード・オサイフケータイ。Apple Payとそれぞれの利用方法があるが、電車やバス以外に、コンビニや自販機でも利用できるため、例えばSuicaの利用できないエリアでも、使用できる店舗は案外多い。電子マネーは事前にチャージした額以上に使いすぎることがないため、子どもたちに持たせる家庭も多いようだが、紛失してしまうと、そのまま第三者に利用されてしまう。利用する店舗と利用する電子マネーとがセットで提供されているセブンイレブンのnanacoのようなサービスもあり、使えるか使えないかがわかりづらいこともある。

スマホ決済は、事前にクレジットカードを登録することで使用できる。Suicaの場合は、クレジットカードから、事前に希望額をチャージしてから使用する。androidスマホを使用している場合はオサイフケータイ、iPhoneを使用している場合はApple Payと、どちらを選ぶかは使用している端末で決まってしまう。iPhoneで使用する、Apple Payはカード画面がそのままのデザインで画面に表示されるため、大変わかりやすい。オサイフケータイとの違いは、クレジットカード番号などの個人情報やサーバーに保存しない仕組みのため、安心感も非常に高い。このサーバーに保存しない仕組みは、アップル側も決済店舗側にもデータを一切記録しないとのことなので、より普及すると考えられる。初期のクレジットカード登録時も、カードをスマホのカメラで撮影し読み取らせ、確認メールの承認番号を入力するだけで登録も完了する。決済時も指紋で起動するのみだ。

「財布を忘れても取りに帰らないが、スマホを忘れると不安で取りに帰る」と言われる方が多